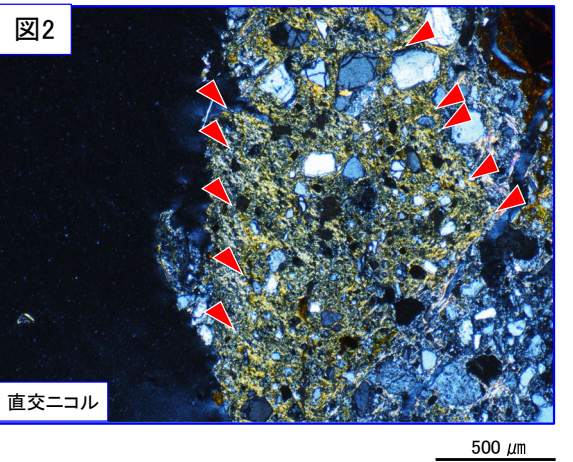
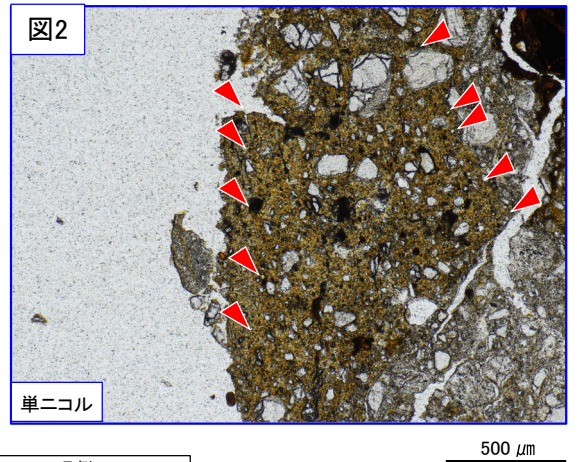
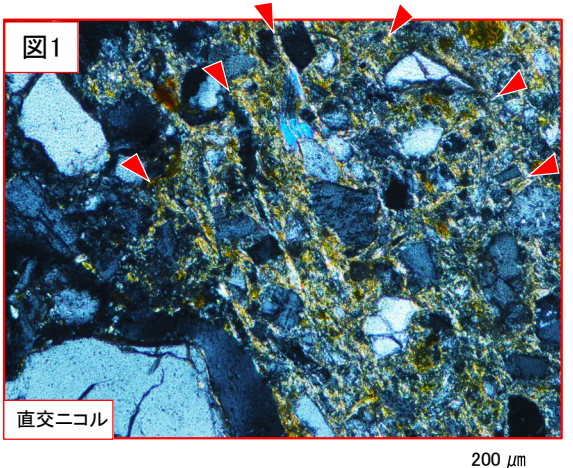
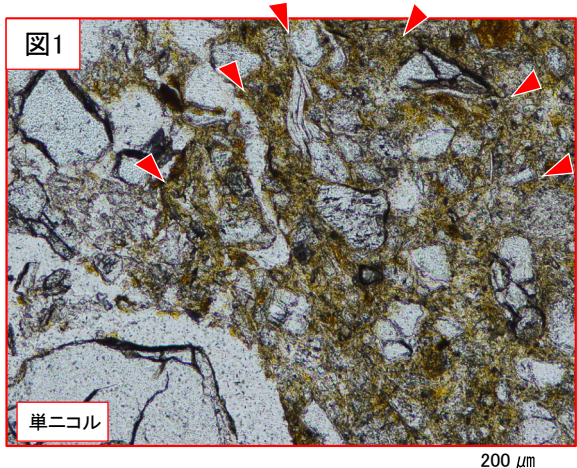
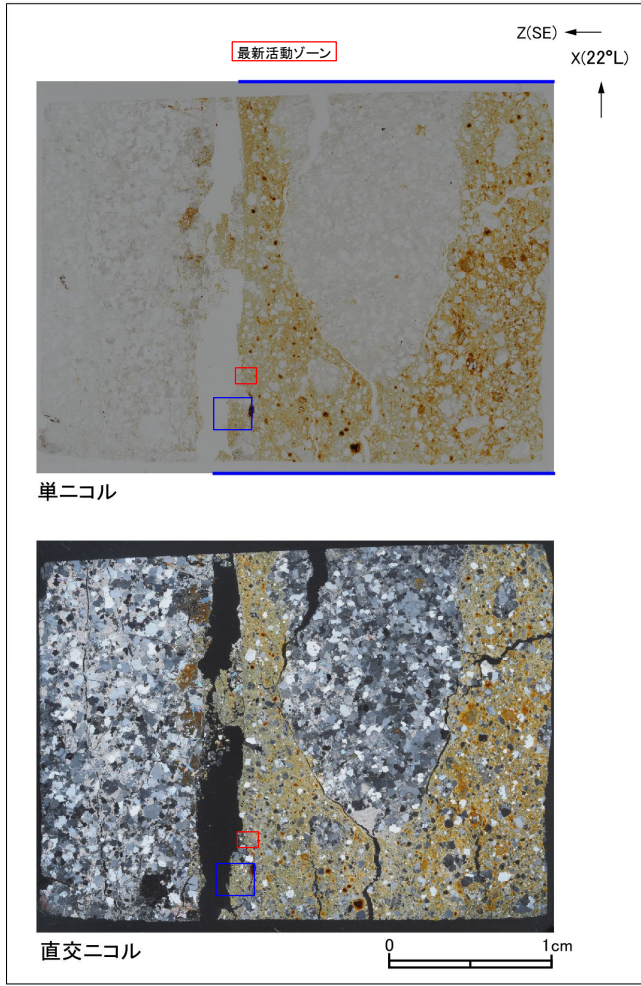


破碎部性状 H27-B-4 深度108.44~108.71m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は岩片を主体とし、粘土鉱物が格子状に分布する。(図1, 図2)
- 角ばった岩片が多い。(図1)

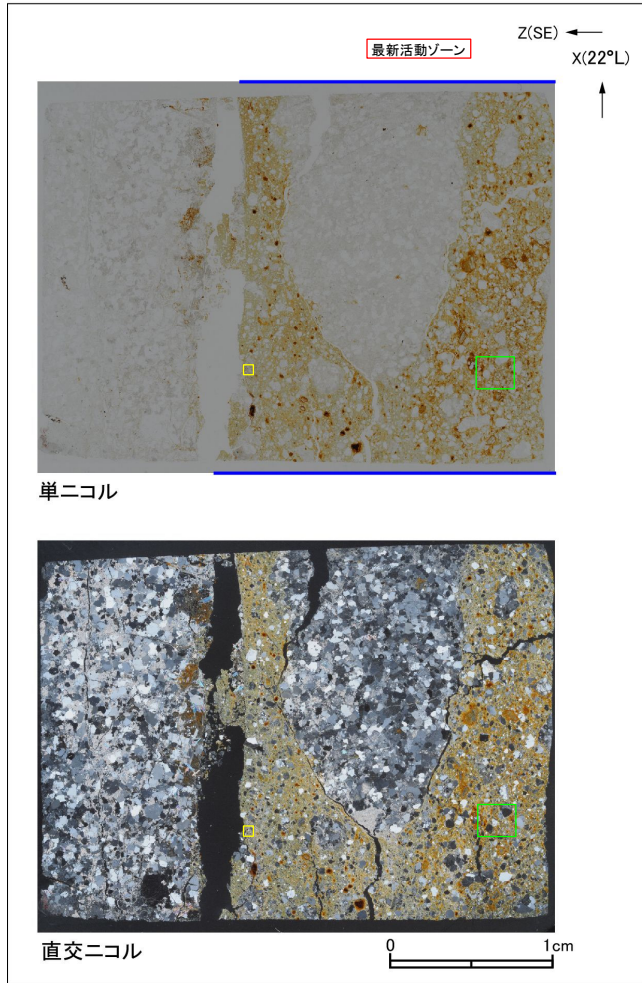


凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

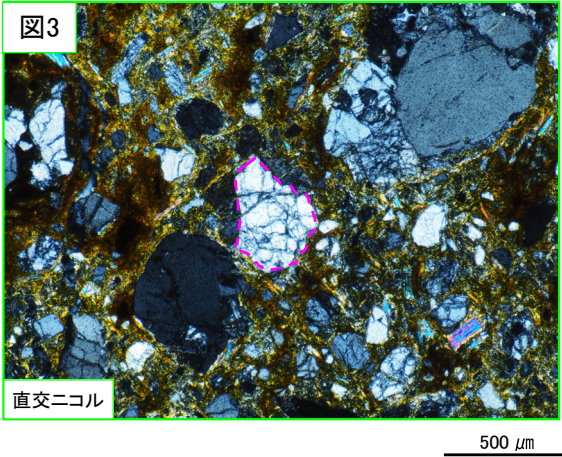
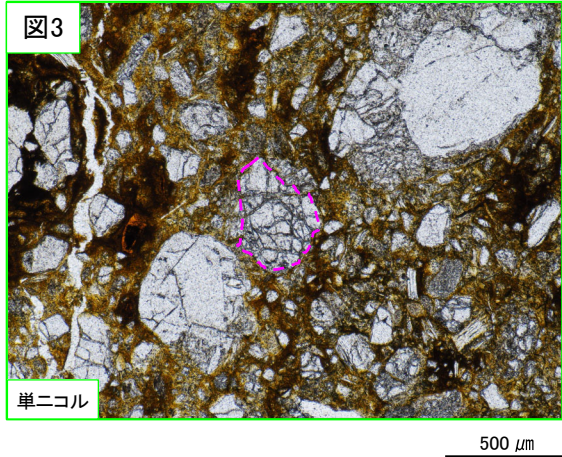
赤三角印方向は粘土鉱物の配列方向を示す

破砕部性状 H27-B-4 深度108.44~108.71m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

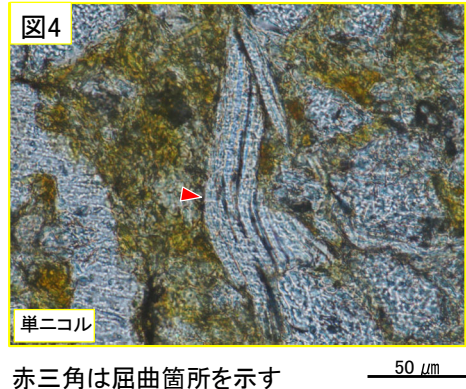
- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



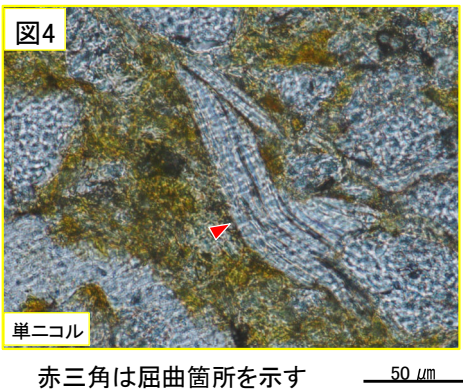
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



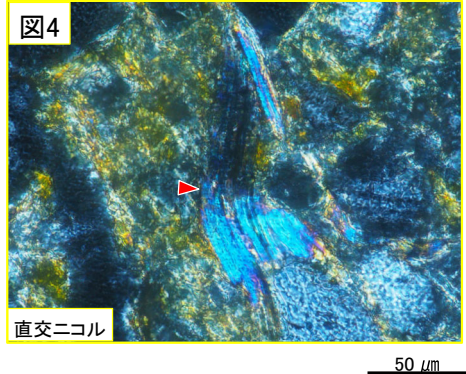
赤三角は屈曲箇所を示す



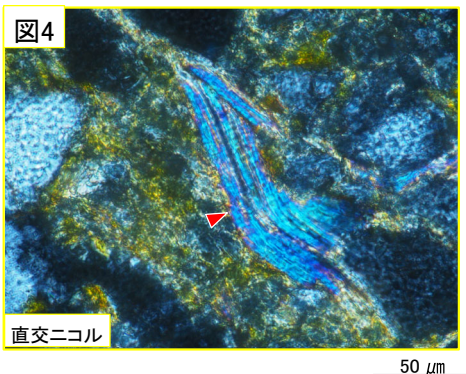
赤三角は屈曲箇所を示す



ステージを
反時計回り
30° 回転



直交ニコル



直交ニコル

破砕部性状 H27-B-4 深度108.44～108.71m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度108.71m)

- 肉眼観察では、礫質粘土状部は軟質であるが、周囲との境界面は波打ち直線性に乏しい。また、褐色汚染が顕著で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が不明瞭になっているが、上端側は褐色部の境界が漸移的で直線性に乏しい。これらのことから上位に分布する変質したカタクレーサイトと同質のものが酸化汚染している部分であると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 断層面に沿った帯状の粘土状部は熱水変質脈の延長上に認められる。
 - 丸みを帯びた岩片が認められない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - 角ばった岩片が多い。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫質粘土状部は、その特徴から変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-D1-5
8.51 ~ 8.71m

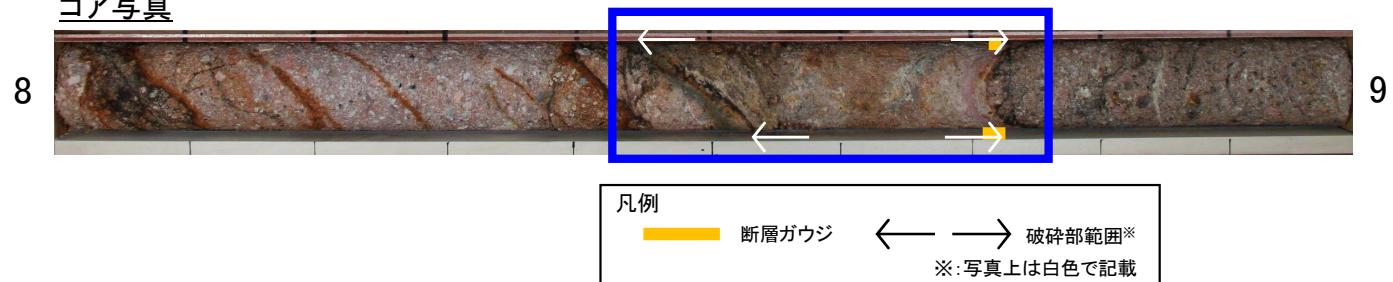
破砕部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度8.51~8.66mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度8.66~8.69mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度8.69~8.70mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度8.70~8.71mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 8.51~8.71m：破砕部
- 8.51~8.66m：粘土混じり岩片状部（Hj）
上端55°でほぼ直線的にシャープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51~8.54mは粘土分が多い。淡黄~にぶい橙色を呈する。
- 8.66~8.69m：粘土質礫状部（Hb）
上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅25~30mm。
- 8.69~8.70m：粘土状部（Hc-1）
上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。
- 8.70~8.71m：粘土質礫状部（Hb）
上端60°で直線的に、下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅3~10mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



破砕部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

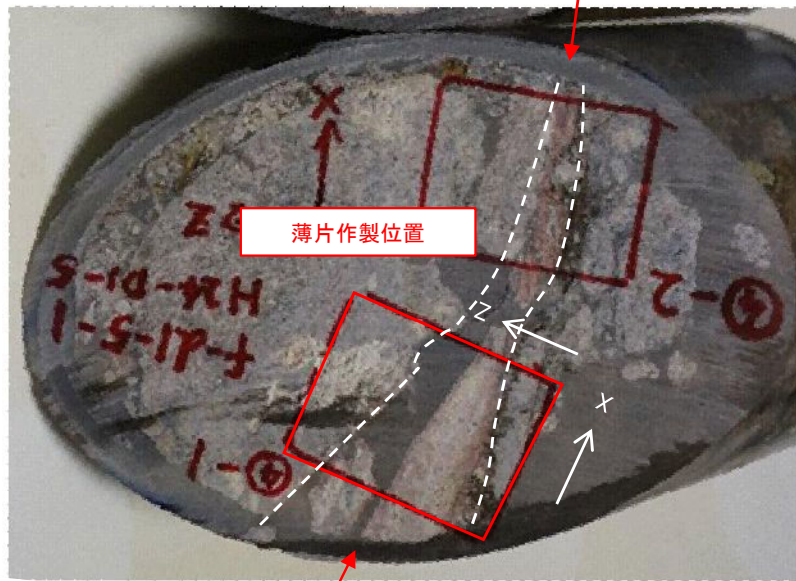
コア写真

※断層面 α は最新活動面



凡例
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※ 断層面
 ※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

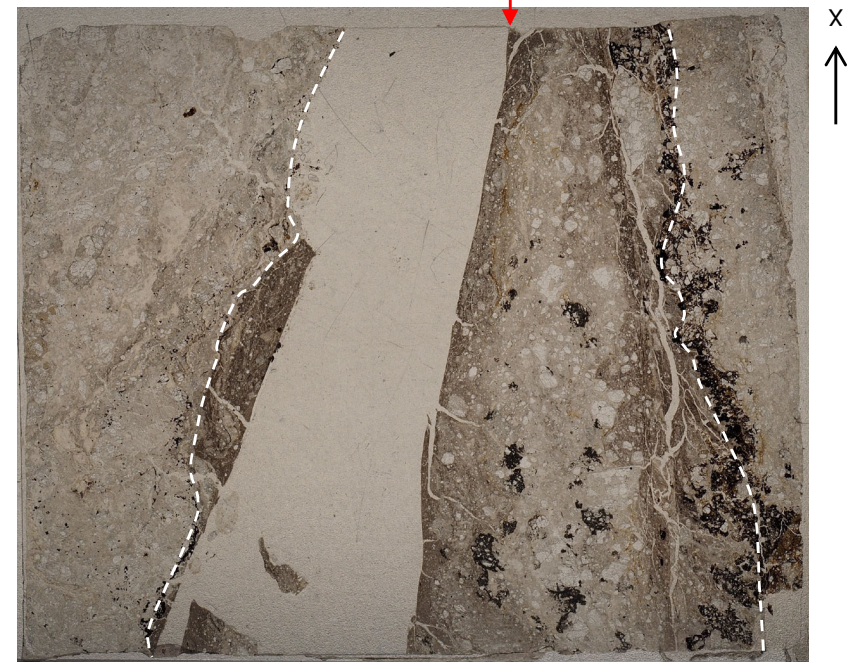


X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

α

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

α

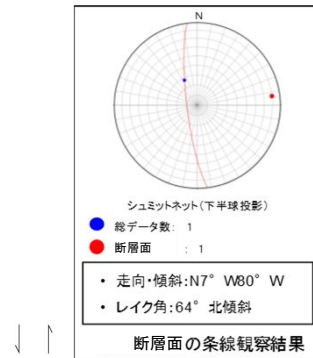
1 cm

凡例
 断層面 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
 ※:写真上は白色又は黒色で記載

破砕部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

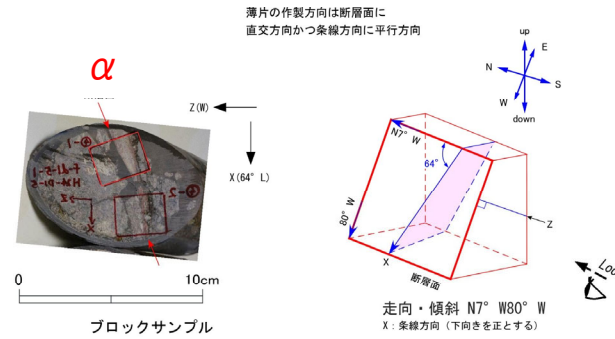
- ・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で連続的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

※断層面 α は最新活動面

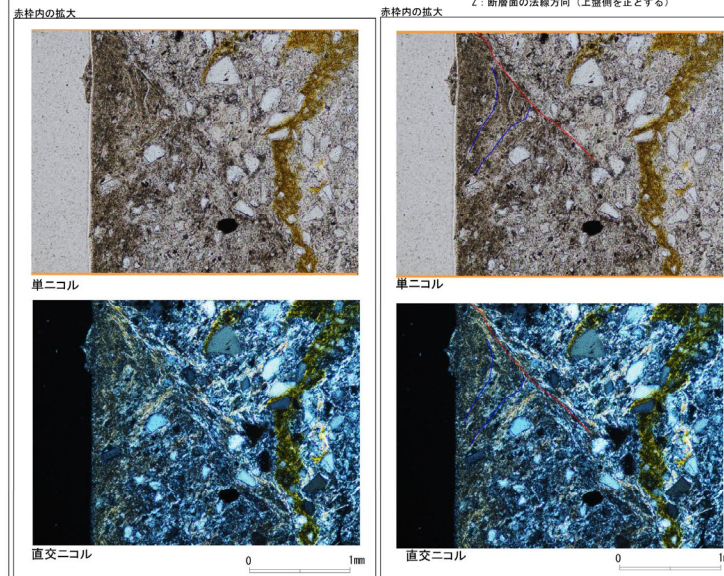
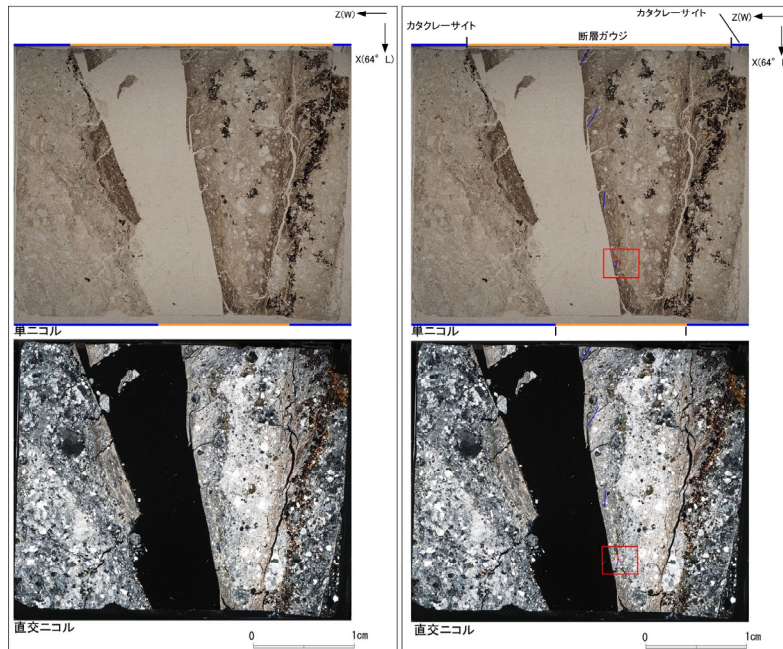


最新活動ゾーン

断層面の条線観察結果



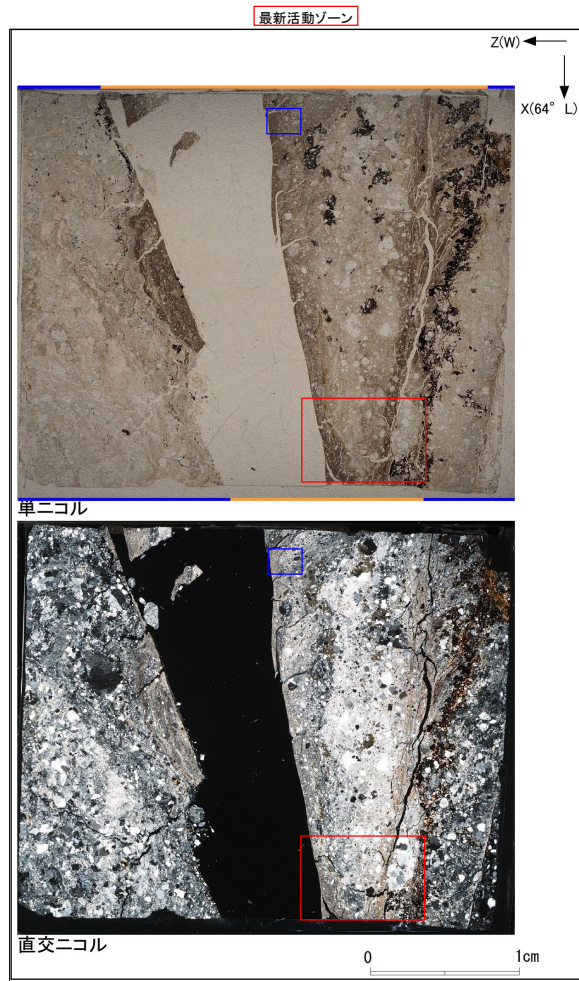
ブロックサンプル



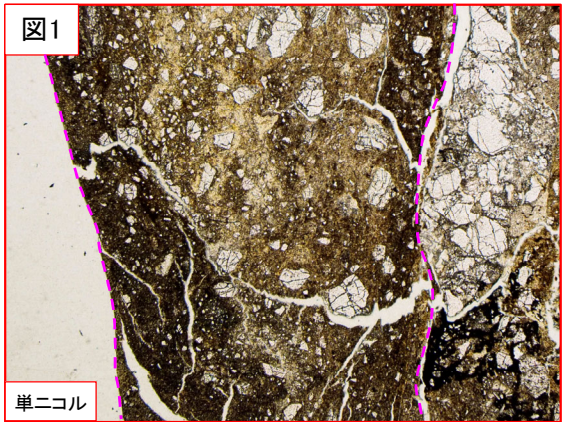
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

破碎部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

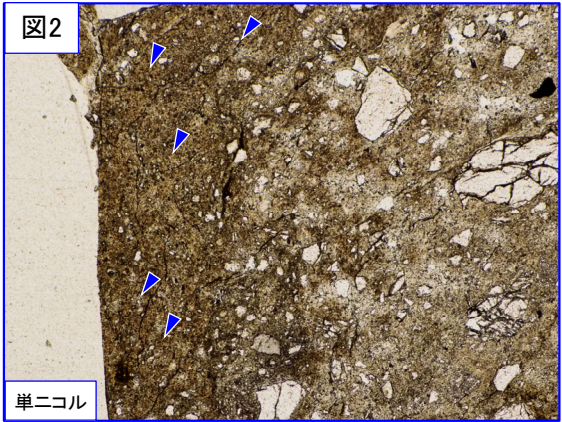
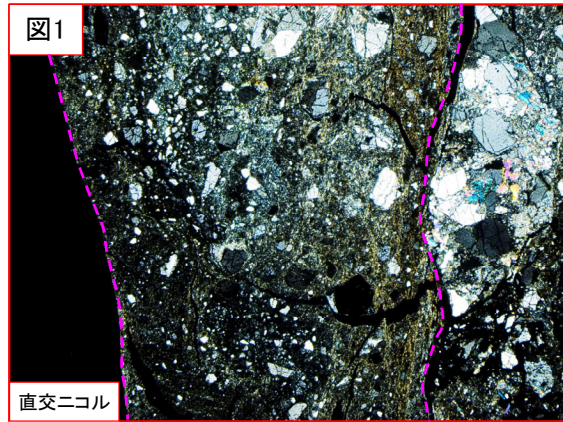
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



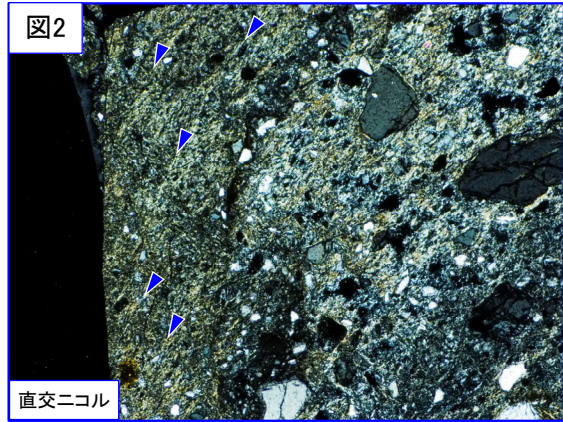
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す

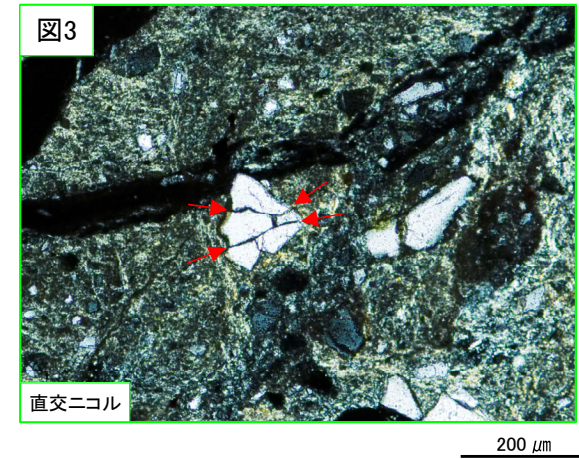
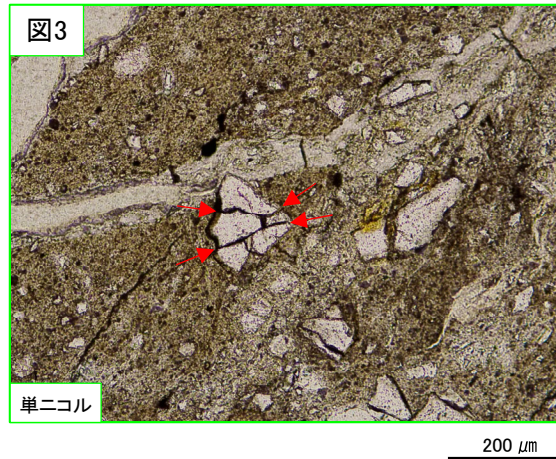
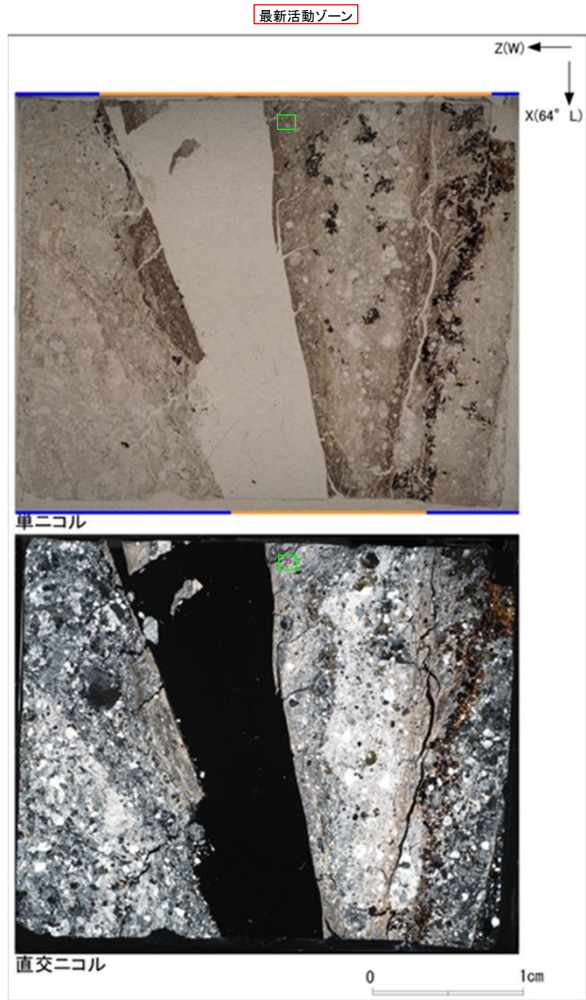


青三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



破碎部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

・最新活動ゾーンには, 以下の特徴が認められる。
 ➤ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

破砕部性状 H24-D1-5 深度8.51～8.71m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度8.70m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・ せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・ 岩片は少ない。
 - ・ 丸みを帯びている岩片が多い。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.6	有

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「－」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-D1-5
10.19~10.21m

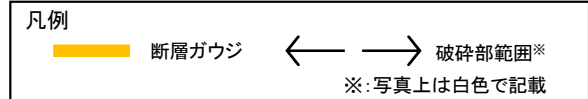
破碎部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度10.19~10.20mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度10.20~10.21mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

- 10.19~10.21m：破碎部（H-3d破碎帯）
- 10.19~10.20m：粘土質礫状部（Hb）
上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。
- 10.20~10.21m：粘土状部（Hc-1）
上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



青枠部拡大 0 5 cm

細粒部が網目状に分布する

破砕部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

コア写真

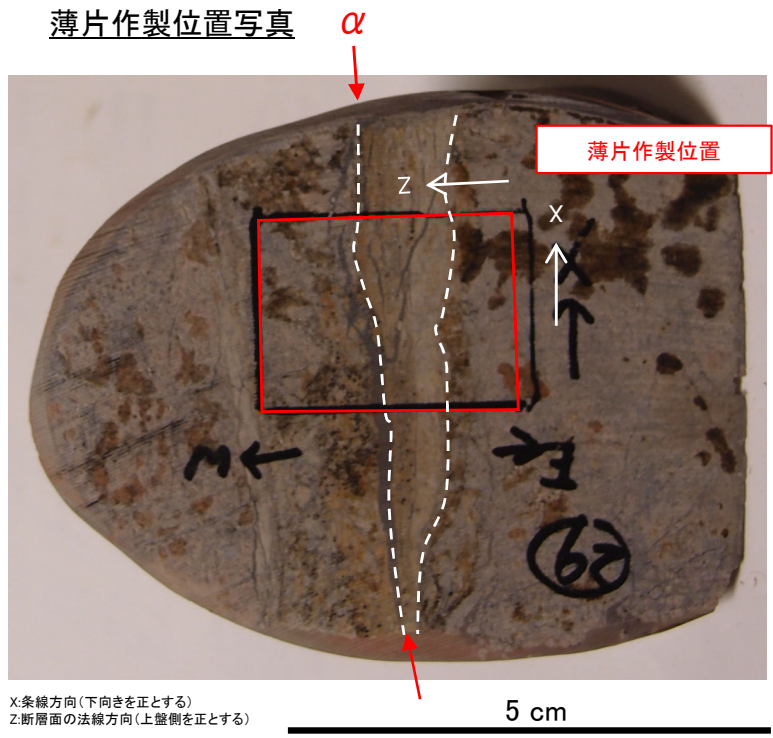


凡例

- 断層ガウジ
- 破砕部範囲*
- 断層面

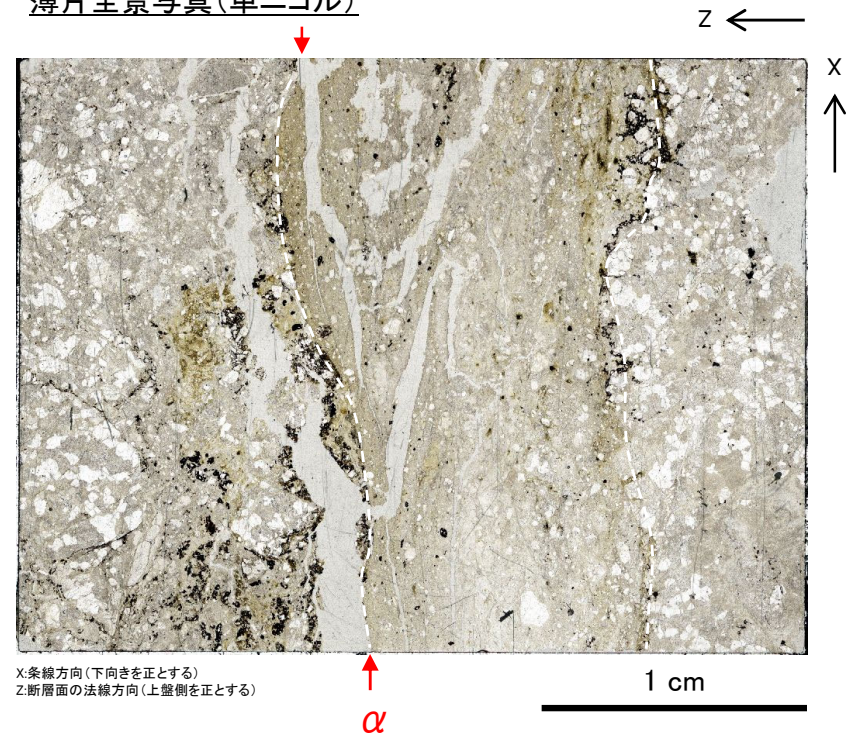
※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲*

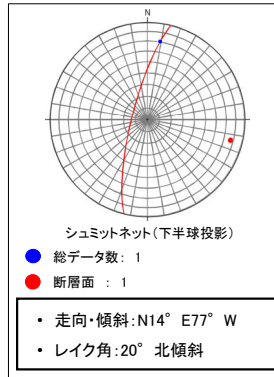
※:写真上は白色又は黒色で記載

破碎部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

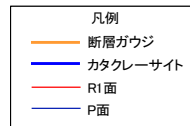
・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

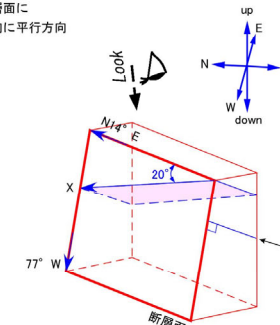
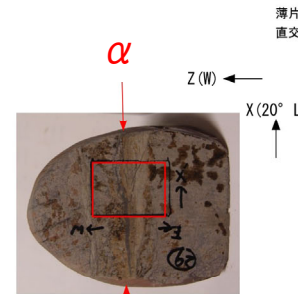
断層面の条線観察結果



最新活動ゾーン

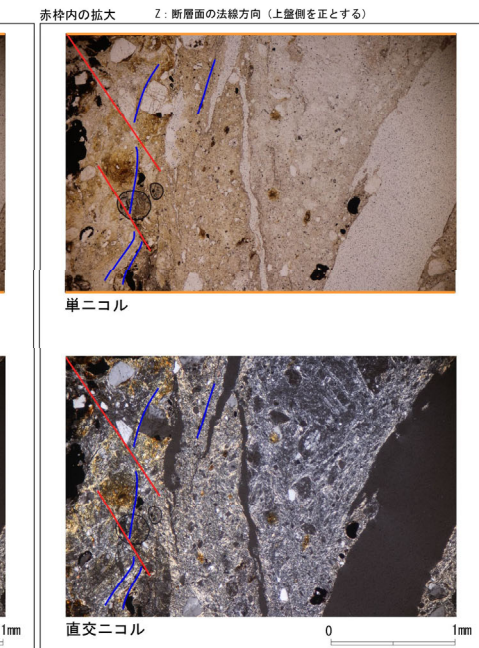
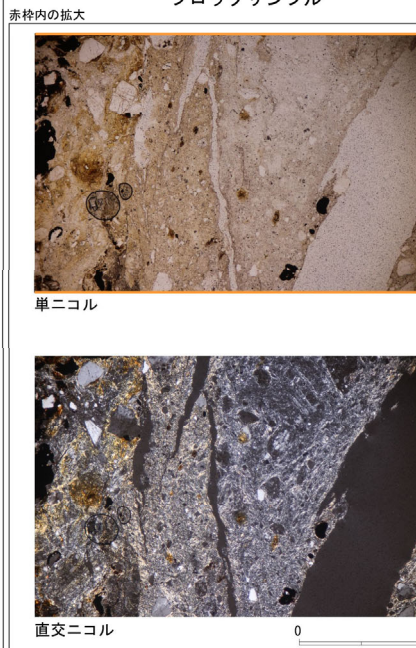
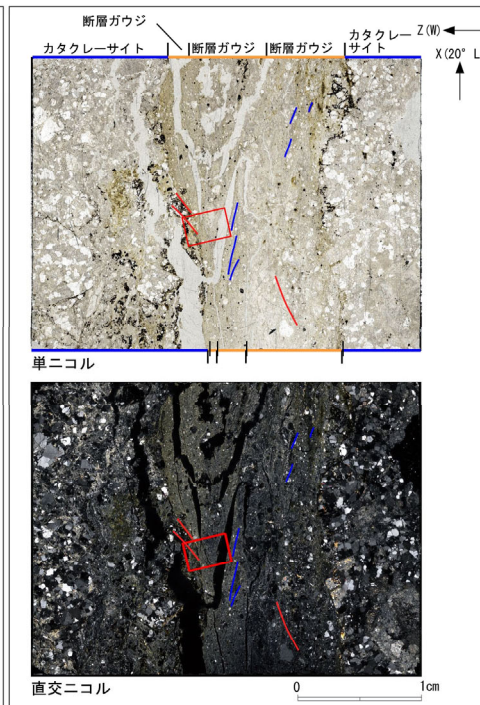
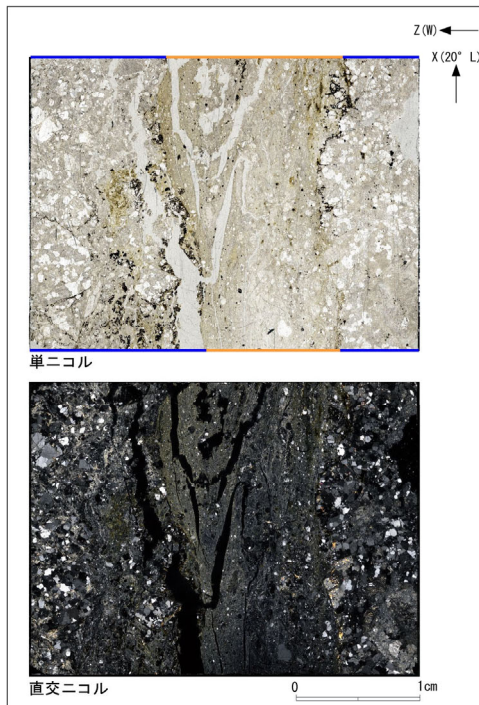


※断層面 α は最新活動面



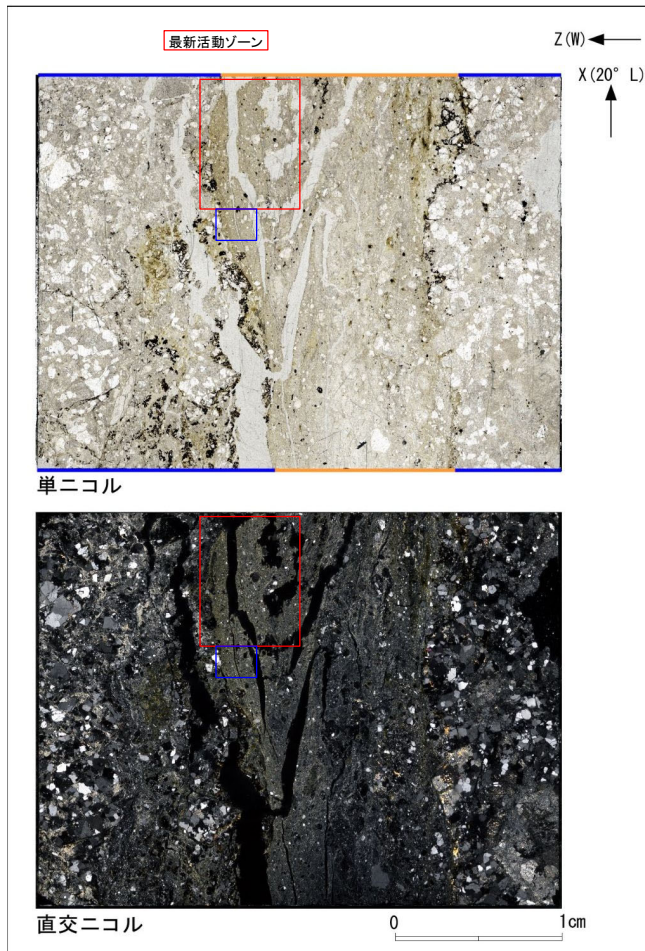
0 10cm
 ブロックサンプル

走向・傾斜 N14° E77° W
 X: 条線方向 (下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)

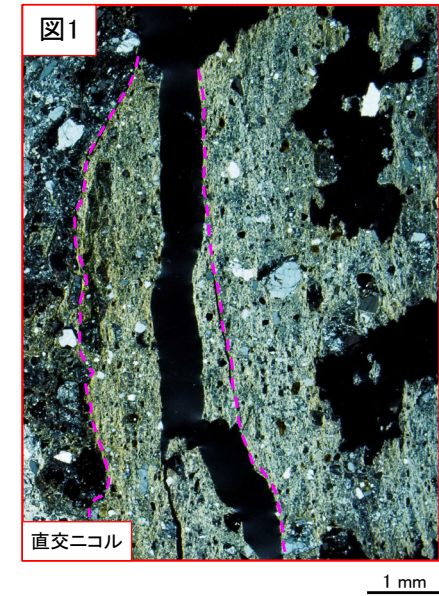
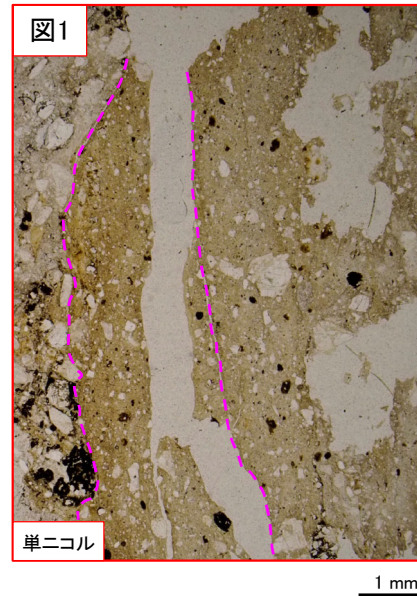


破砕部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

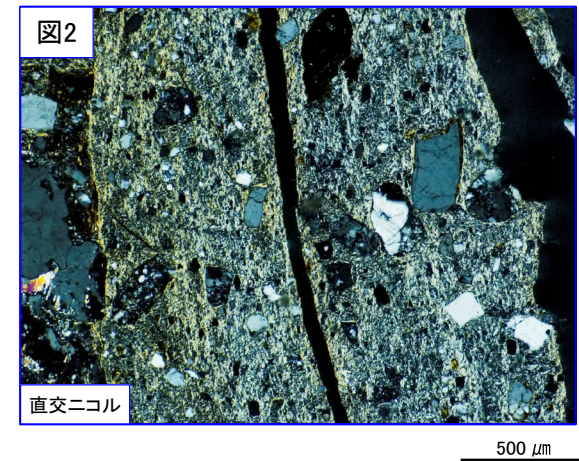
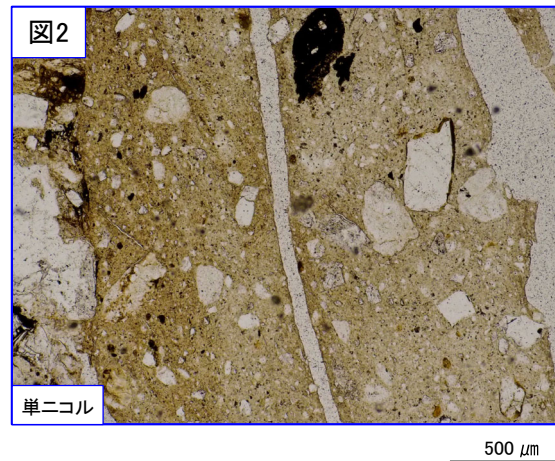
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

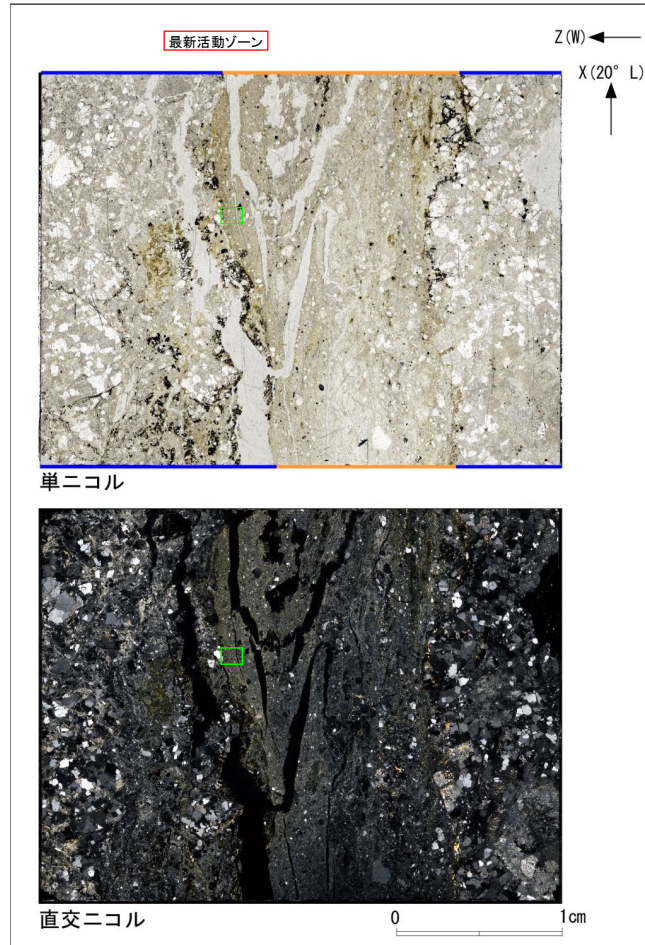


破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す

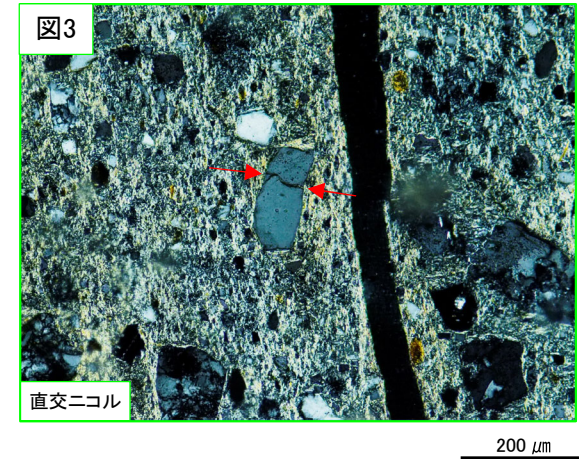
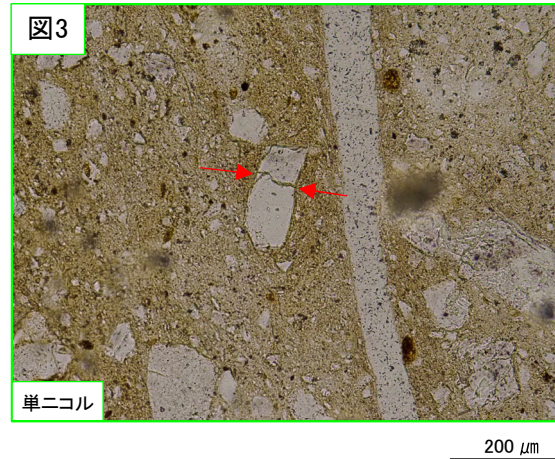


破砕部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

- ・最新活動ゾーンには, 以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

破砕部性状 H24-D1-5 深度10.19～10.21m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 10.20m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・ 岩片は少ない。
 - ・ 丸みを帯びている岩片が多い。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ・ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.5	有

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「－」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-D1-5
10.45 ~ 10.50m

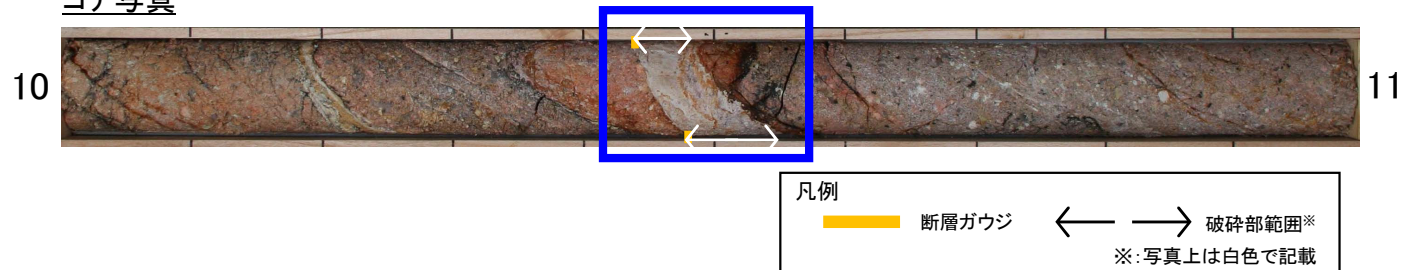
破砕部性状 H24-D1-5 深度10.45～10.50m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度10.45mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度10.45～10.50mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 10.45～10.50m：破砕部（H-4' 破砕帯）
- 10.45m：粘土状部（Hc-1）
傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。
- 10.45～10.50m：粘土質礫状部（Hb）
上端30°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1～2mmの石英粒と長さ10～20mm、幅5～10mmの扁平化した花崗斑岩の礫を多く含む。軟質。灰白～にぶい橙色を呈する。幅40～45mm。

コア写真



細粒部が網目状に分布する

連続性及び直線性が良い細粒部

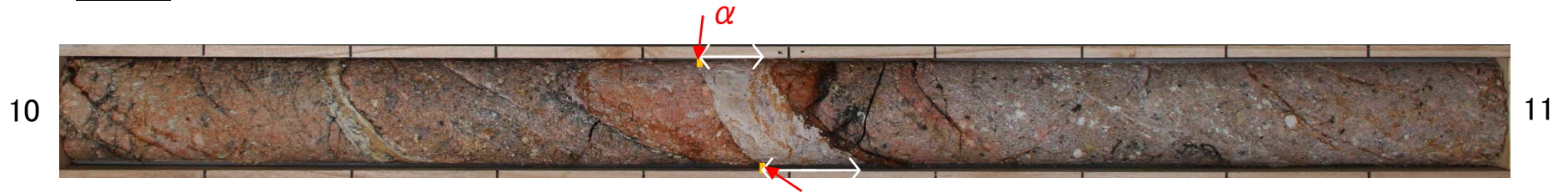


破砕部性状 H24-D1-5 深度10.45~10.50m(薄片作製位置)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面

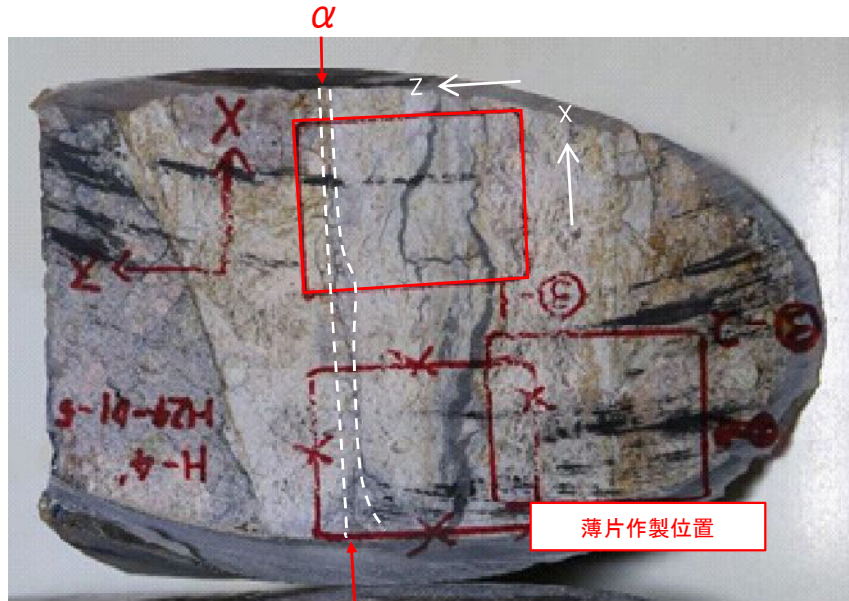


凡例

断層ガウジ ← → 破砕部範囲※ 断層面

※:写真上は白色で記載

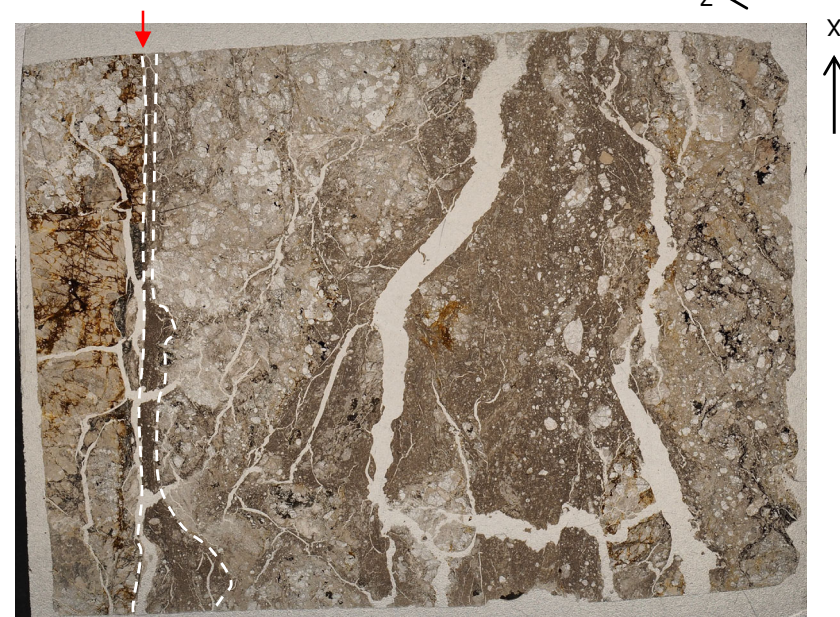
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

凡例

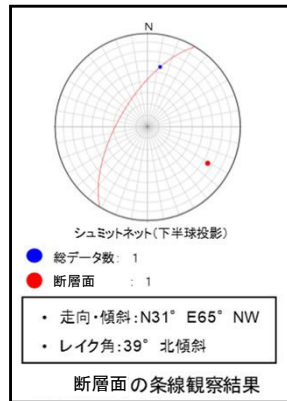
断層面 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

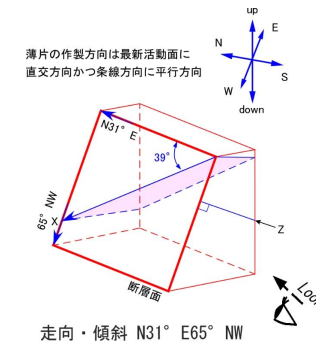
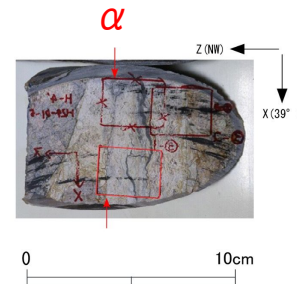
破砕部性状 H24-D1-5 深度10.45~10.50m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

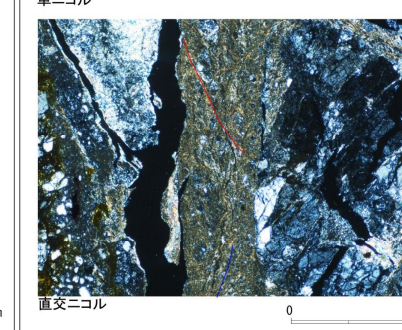
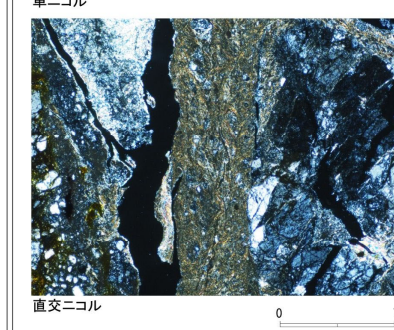
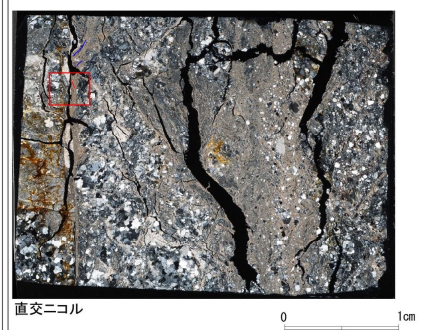
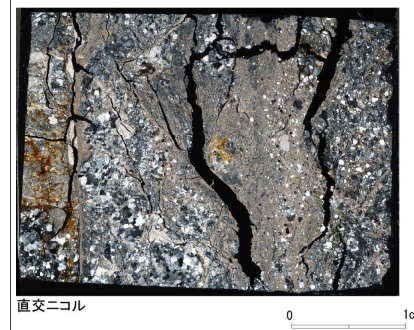
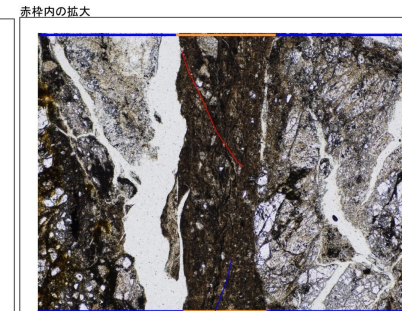
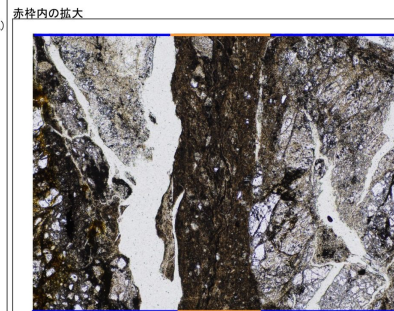
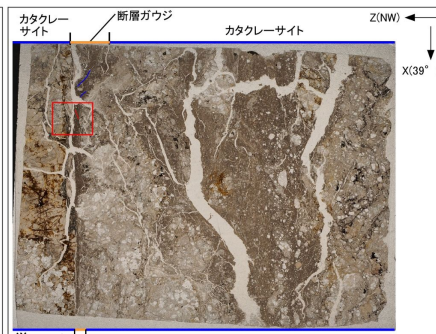
※断層面 α は最新活動面



最新活動ゾーン



ブロックサンプル



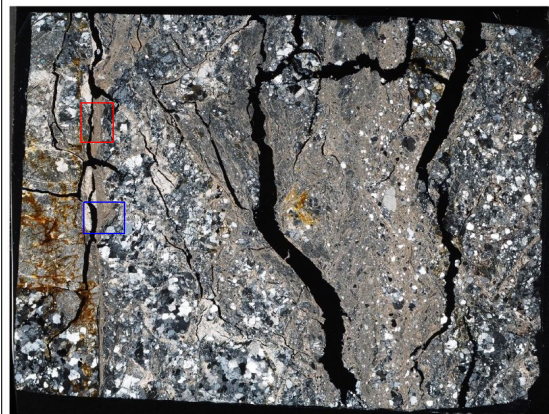
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

破碎部性状 H24-D1-5 深度10.45~10.50m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

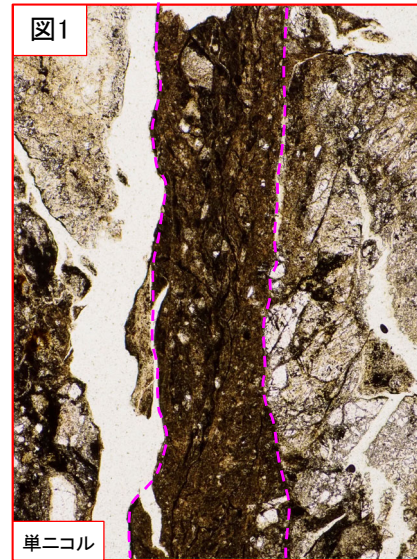


単ニコル



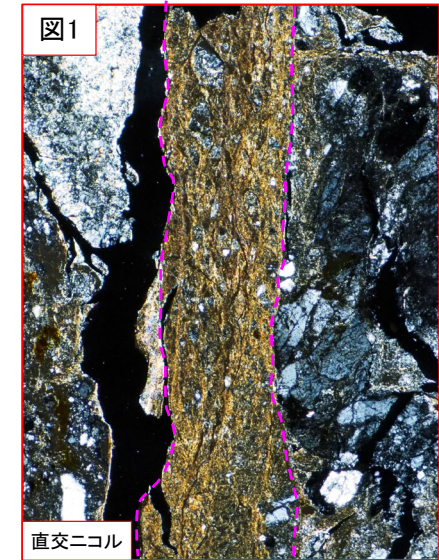
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



単ニコル

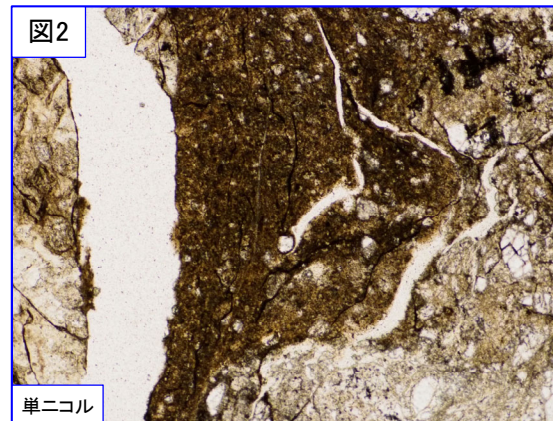
500 μm



直交ニコル

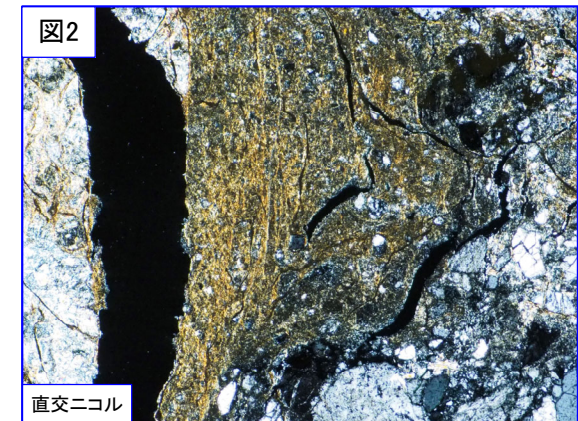
500 μm

破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



単ニコル

500 μm



直交ニコル

500 μm

破砕部性状 H24-D1-5 深度10.45～10.50m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度10.45m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された最新活動ゾーンの軟質な細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.1	有

*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「－」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-D1-5
47.47 ~ 47.89m

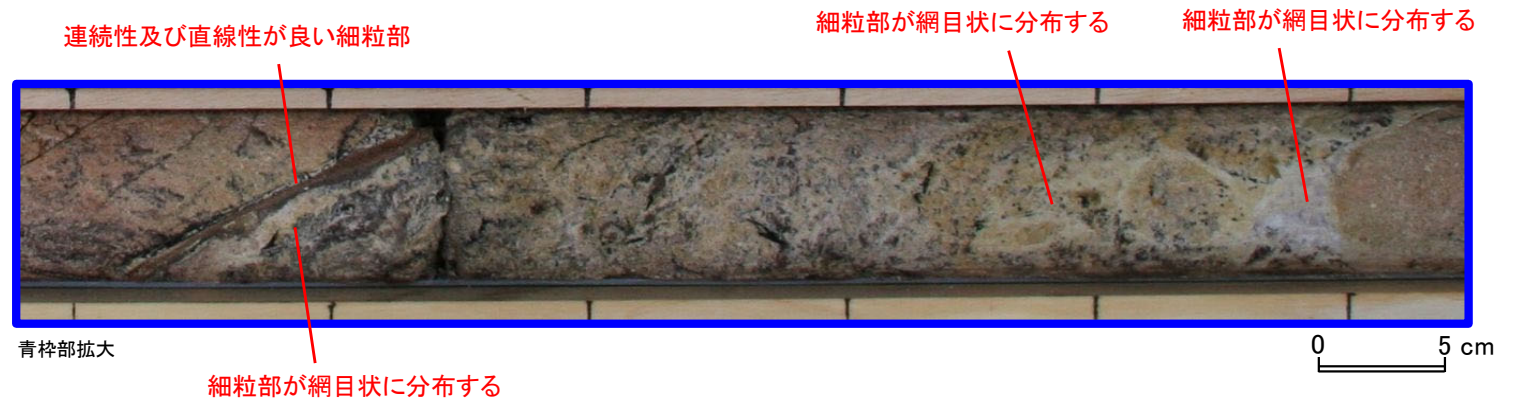
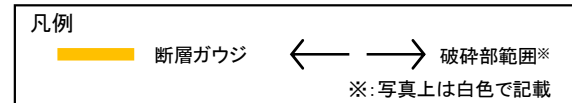
破碎部性状 H24-D1-5 深度47.47~47.89m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度47.47~47.48mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度47.48~47.66mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレサイトであると判断した。
- ・深度47.66~47.86mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレサイトであると判断した。
- ・深度47.86~47.89mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 47.47~47.89m: 破碎部 (D-1破碎帯)
- 47.47~47.48m: 粘土状部 (Hc-1)
傾斜65°で直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。
- 47.48~47.66m: 粘土質礫状部 (Hb)
上端65°で直線的にシャープに連続、下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。幅67mm (68°)。
- 47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)
上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシャープに連続。径10~40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」、ないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。
- 47.86~47.89m: 粘土質礫状部 (Hb)
上端63°、下端60°でともに直線的にシャープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。

コア写真



破砕部性状 H24-D1-5 深度47.47~47.89m(薄片作製位置)

・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面βは最新活動面

コア写真



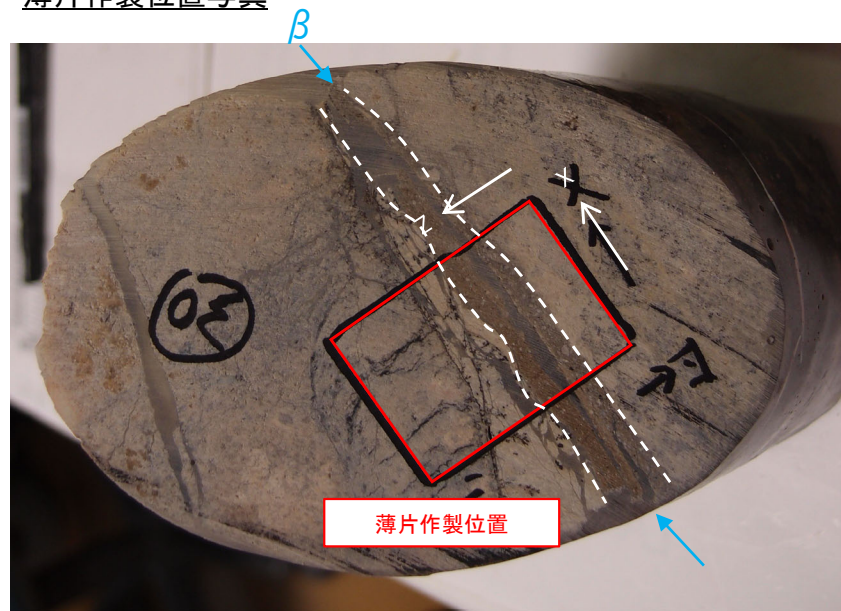
凡例

断層ガウジ

 破砕部範囲※
 ↙ 断層面

※:写真上は白色で記載

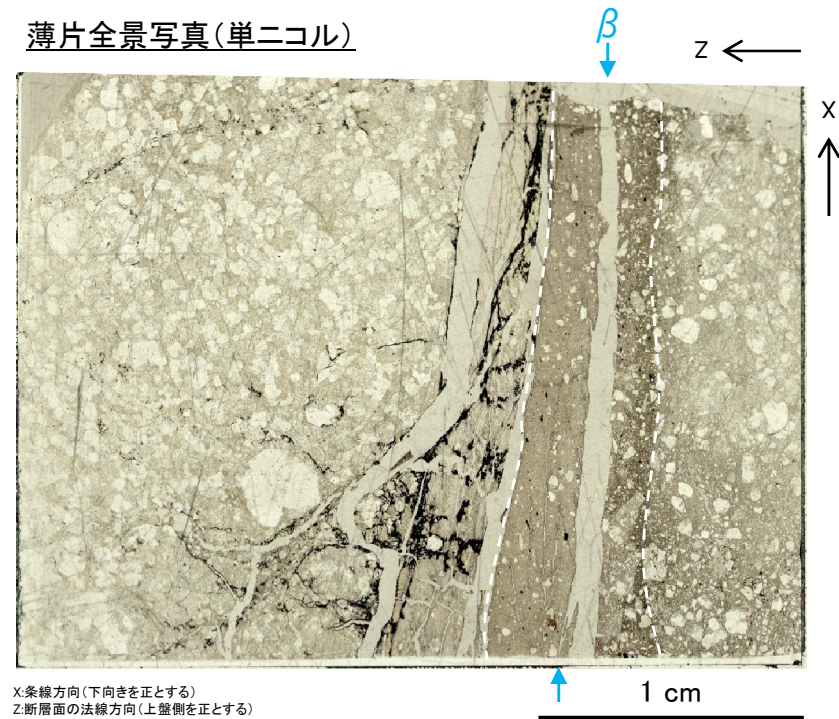
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

凡例

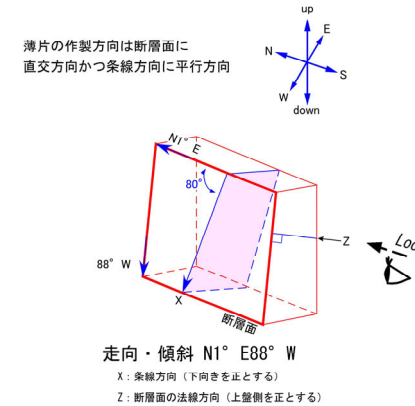
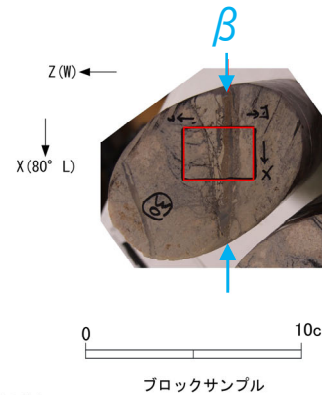
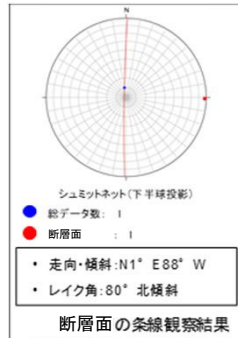
↙ 断層面
 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

破砕部性状 H24-D1-5 深度47.47~47.89m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは, 正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから, 断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面



凡例	
— (orange line)	断層ガウジ
— (blue line)	カタクレーサイト
— (red line)	R1面
— (purple line)	P面

